カトリック高松教区報

2007年5月6日（第117号）
発行所 カトリック高松司教区 広報委員会
〒760-0074 高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659 FAX 087-833-1484
Email
教区:tkcuria@mxi.netwave.or.jp
広報:tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成:yosei@takamatsu.catholic.ne.jp
http://www.takamatsu.catholic.ne.jp/

対話を大事にする福音宣教

何が自分にできるのかを問う

高松教区長　溝部　脩

高松教区は「福音宣教」という目標を今年は掲げています。教書でも申しましたが、宣教ということで余り肩肘を張る必要は毛頭ありません。信念を持った暖かい生き方をしていれば、それは自然と伝わるものです。余り大上段に構えすぎると、相手は反抗したり、引っ込んだりするものです。本物は黙っていてもきっと伝わるものなのです。そのところを良く弁えないで、方法論ばかりを云々していると出口の見えない宣教ということになります。

それにしても、宣教のためにはどうしても大切にしなければならない原則は「対話」ということです。対話ははじめから自分のものを押し付けることではありません。まず相手を聞く、そして相手の状況を理解するということから始まるものなのです。時々「宣教」ということで力んでしまって、何か自分の身にしみついていない理論を教え込む傾向があります。相手を聞いていれば、相手に適切なことばをかけることができます。その適切なことばこそ「宣教」なのです。よく聞く人は適切なことばを見出すことができます。このように考えると宣教は易しいことです。しかし、相手をよく聞くということでは、大変な忍耐が必要だということです。

「対話」ということで、自分が持っている考え、または信念ということが大切になります。相手と話していて、何の定見も持たなければ、会話が成り立ちません。ありきたりのことを、ありきたりに話すに過ぎません。自分の考えを確立するには、自分が何を信じているのかをよく理解する作業をしないといけません。現在、高松教区では生涯養成ということを大事にしています。洗礼をうけたらそれで終わりということではなく、そこから信仰の深い理解への歩みをしなければなりません。どのようにするのか、それは一人ひとりに課せられた課題です。カトリック新聞なり、他のメディアを利用して何が自分にできるのか問うてみて下さい。

「対話」ということで、もう一つ重要なことは、大きく物事を理解する習性を身につけることです。現代私たちを取り囲む社会の情勢や人々が置かれている状況をしっかりと把握することです。教会が現代社会の問題に関してとんちんかんな返答を繰り返すのは頂けません。対話できる人間に育つためにはどのようにすればよいのかに答えることが「福音宣教」のまずの事始めなのです。

復活徹夜祭にて（桜町教会）

主な記事

2面	お迎えする司祭挨拶文
3面	マリ・ウージェニー列聖
4～5面	各委員会報告
6～7面	受洗者の喜びの声
8面	各地区だより
9面	医療のともしび
10～11面	会計報告等

はばたき

ついこの間まで梢を冬空に突き立てていた裸木が、いつの間にか豊満な緑の衣をまとっている。世はまさに、教区の現状を象徴する希望の時節・・・。

▼溝部司教の熱い思いを受け、教区はいま着々と協力宣教司牧体制を整えつつある。司祭と修道者と信徒が一緒になり、一歩一歩しっかりと歩き始めた。長年かかって培った伝統や習慣を一気に変えることは難しい。しかし目指す目標が見え、道が定まれば、かならず辿り着くことができる。コリント書の「一つの体と多くの部分」の例えのとおり、一人では何もできなくても、それぞれが自分の役割を果たすことによって、全体が生き生きとしてくる。さあ、これからだ！

▼このたび西川康廣師が終身助祭に叙階された。師は私たちと同じ立場で歩んできただけに、私たちのよき理解者としての活躍が期待される。豊かな才能を活かし、協力宣教司牧の推進に精励されますよう、主の照らしと恵みをお祈りする。

お迎えする司祭

遍路の旅に

青少年担当司祭　佐藤直樹

高松教区の皆様、はじめまして、神奈川県藤沢市出身の佐藤直樹です。今回、高松教区での司牧を拝命することになりました。私は今まで東京以外の場所で働いたことが全くなく、司牧どころか、地理的にも右も左も分からない状況です。しかも今まで学校という職場の経験しかなく、教会司牧そのものすら初めての状況です。それはあたかも私自身が「遍路」の旅に出るようなものです。四国は、お遍路さんたちを支える土地柄と聞き及びます。

どうか私の司牧という遍路の旅をも皆様に支えていただけたら幸いです。イエス自身も御自分の宣教活動を弟子達とのつながりの中で「共に」歩んだように、私自身も、人とのつながりを大切にしながら「共に」歩んでいけたらと希望しています。そして讃岐の国といえばこしのある「うどん」の名所。美味しいうどんを戴きながら、私自身も腰を据えて、味わい深い体験を、青少年たちを通して出来たらと願っています。宜しくお願いします。

虹のように

桜町教会担当司祭　カンバラ・デシデリオ

高松教区の皆さん、私は「はじめまして」と言うべきでしょうか、それとも「ただいま」と言うべきでしょうか。

私は今から一四年前まで高松教区で働いていました。その後、スペインに帰り、再び日本に戻ってきたのが一九九八年。それから八年半を大阪教区で過ごし、この春、また高松にやってきました。ですから、ある人にとっては「ただいま」といい、またある人には「はじめまして」というのが、今の私です。これから、ここで働かせていただくこと、よろしくお願いします。

私は決して若くはありません。ですから、これからどれくらい高松でみなさんに奉仕できるのか、それはわかりません。神様が私に与えてくださることを、日々、感謝とともに務めていくことが私のなすべきことだと思います。

この一月末、私の友人がアフリカ・ジンバブエで司教に叙階されました。その叙階式に出席するために、当地に行ってきました。アフリカ大陸は初めての土地でした。そこで、あのビクトリアの滝を訪れました。水けむりを上げ、そして大河に流れ込む壮大な滝。それ自体に私は感動したものでしたが、それ以上に感動したのは、そこで見た虹でした。あれほど大きな滝ですから、滝のあちらこちらに同時に幾つもの虹があらわれることは珍しくないそうです。私が訪れたときもそうでした。水けむりの中に七色の虹がくっきりと浮かび上がりました。それは、息をのむ美しい光景でした。

ビクトリアの滝

七色の虹と言われます。確かに七つの色が見えます。でも、一つ一つの実態があるわけではなく、光のスペクトラムによって、人間の目に七つの色として見えると言うことです。つまり、虹の実態を探っていけば、それは七つではなく、一つの現象だと言うことですね。それが、私たちの目には七色に見える。ビクトリアの滝にかかる虹を見ながら思いました。もとは一つなんです。それは、目で見ることはできない、触ることもできない、聞くこともできない、だけどそこにあるもの。ただ、唯一のものです。それが、ある条件のもとで、七つの色をあらわす虹となる。それは、ほんとうに一つ一つがかけがえのない色。私たちを感動させてくれる虹の美しさです。

一つ一つの色は、それ自体、すばらしいものです。しかし、それぞれが自身の美しさを主張するのではなく、隣にあるものとの調和のなかで自身がより美しくなる。それを知っているのが虹なんだと思います。

大自然のなかで、そんなことを感じてこの一年が始まりました。そして、この春、高松の皆さんと過ごすことになりました。虹のように、その一つ一つの色の美しさをかもしながら、共にあることで、より一層の美しさを奏でる虹のように、一人一人があってほしいなと思います。

一つ一つの色は違っていても、すべてが神様に与えられた色であり、それがハーモニーを奏でることで、より美しい虹をあらわせるように、そんなことを思っています。

私自身がそうでありたい、また、これから出会うみなさんが、そんな一つ一つの、そして奏で合う色であってほしいと願っています。

わたしの主、わたしの神よ

カトリック高松司教区助祭　西川康廣

神の憐れみと慈しみによって、私は、去る三月二一日「春分の日」に高松教区において終身助祭の叙階の秘跡を受けましたことを謹んでご報告いたします。一九七五年一月からオブレート会が司牧する、兵庫県伊丹教会で伝道師の歩みが始まり、その後、徳島教会と高松司教区で働いて参りました。しかし二〇〇二年一〇月に高松司教区を退職し、その後フリー伝道師として活動してきました。

翌年の春から高等技術専門学校に通い、住宅リフォーム一般技術を習得し、卒業後名古屋の友人大工を頼りに大工の手伝いをしながら生計の一助を得ることができました。彼は熱心な長崎信者でわたしが日曜ごとに教会奉仕があることも理解してくれ、どんなに忙しい期間であっても週末には四国へ帰ることを優先させてくれました。名古屋滞在中は教会に宿泊させて頂き、日中は大工仕事に従事し、夜は聖書講座や結婚講座また時にはミサ説教の奉仕をさせて頂きました。

二〇〇六年五月、溝部司教の声掛けで徐々に高松教区の仕事にも携わるようになり、忙しさも次第に増しその年はあっという間に過ぎ去りました。フリー伝道師として活動した四年間は、黙想会や研修会や講演会などをしながら教区の内外で教会奉仕を続けて来ました。しかし自分自身の心の中に平安がなかっただけに、信仰の面においても落ち込み状態にあったことを、神の御前に素直に認めざるを得ません。しかし神は、この間これらの奉仕を通してわたしに沢山のみ言葉を与え、またぶどうの木であるキリストにしっかり繋ぎ止めて下さっていたことも事実です。そして時が満ちたとき、溝部司教を通して再度わたしを高松教区へ呼び戻して下さいました。こうして今度は助祭として奉仕することを、神はお望みになりました。これまでの私の人生の全ては、今日のこのための長い準備期間だったのかもしれません。

実に神の計らいは不思議です。想像にも及ばなかったところで、教区顧問会、司祭評議会を経て、昨年一二月に宣教司牧評議会の推薦と承認を得て助祭叙階が確定しました。小さな存在に過ぎないこのわたしを聖なる奉仕に招いて下さった神に、わたしは恐れと畏敬の念を持って、この新しい助祭の召命の道を歩み始めました。キリストは地上で三三年間福音宣教をされましたが、私も三三年間伝道師一筋に奉仕してきました。

これからは助祭の身分で、教区本部事務局長の大任を背負っていくことになります。叙階式に当たり教区の皆さんから寄せられた沢山のお祈り、またご厚情に心から感謝申し上げます。今後ともどうぞ祈りで支えてくださいますように、宜しくお願い申し上げます。

大きな喜びの知らせ

～聖母被昇天修道会創立者・マリ・ウージェニーの列聖～

私のまなざしは、イエス・キリストとそのみ国の発展に向けられている。
（マリ・ウージェニーのことば）

一九七五年二月九日、故パウロ六世によって列福された、聖母被昇天修道会創立者マリ・ウージェニーは、二〇〇七年六月三日　三位一体の主日に、ローマ・ペトロ大聖堂において、教皇ベネディクト一六世によって聖人と宣言されます。全世界の教会と共に、高松教区の皆様と共に、この喜びの日を、感謝をもって迎えたいと願っております。

さて、聖母被昇天修道会の始まりとその歩みをお伝えしましょう。

聖マリ・ウージェニー・ミルレは、一八三九年に、パリで聖母被昇天修道会を創立しました。創立にあたって、彼女の根本的なビジョンは、教育によって社会を変革することでした。最初の共同体は、五人の若い女性の共同体で、そこから修道会は急速にヨーロッパ、アフリカ、アジア、アメリカへと広がっていきました。現在、三五ヶ国に一七七の修道院が存在し、一三〇〇人のシスター達が種々の宣教活動に励んでいます。

聖マリ・ウージェニーは、「私たちのイエスへの信仰が、世界とすべての人々への奉仕に駆り立てるのだ」と教えました。彼女は、「すべての行動は、愛と祈りから発出しなければならず、私たちを時代の要請に応えるようにさせるのだ」と信じていました。今日、私たちは世界のどこでも、教育を通じて人々の必要に応えるために、人々が抑圧されることのない社会の建設のために、様々な形で人々と共に働いています。

学校や教会学校で教え、地域の子どもたち、若者と関わり、彼らが使命を見いだすよう同伴し、女性や子どもの権利を守り、移住者や社会から排斥された人々と共に、人間を大切にする秩序を確立するために闘うことなどに力を注いでいます。

キリストの愛の教えにもとづいて、新しい社会、新しい世界を建設するために、神の協力者となったマリ・ウージェニーの精神は、全世界の聖母被昇天修道会の中で、今日なお力強く生きつづけています。

聖母被昇天修道会高松修道院

主よ、私があなたを愛していることは、あなたがご存知です。
（ヨハネ二一・一六）

◆マリ・ウージェニーの誓願の指輪に刻まれたことば◆

委員会報告

司祭評議会 もっと全司祭の交流を

教区事務局長　西川康廣

○　司祭評議会
・　司祭研修会
日　時＝五月八日一五時～九日一二時
場　所＝徳島教会
テーマ＝殉教者について
指　導＝溝部司教
テキスト＝「キリシタン地図を歩く」
　プログラム終了後、希望者は阿南の西光寺（ディオゴ結城了雪神父の生誕地）を訪問する。
・　全司教集会では、司祭は所属ごとに集会を持っているが、教区で働く全司祭の集会が少ない。教区がより力を結集させるためには、全司祭がもっと交流し、ともに祈り、学び、意思の疎通を行うことが大切だ。そのために事務局長を中心に準備委員会を構成することになった。委員は、教区司祭（諏訪師）、各修道会・宣教会から一人ずつメンバーを選出し五人編成とする。今までは年二回の集いだった（聖香油ミサと司祭研修会）。これに更に四回を加えて、年に六回を全体会に充てることになった。

○　宣教司牧評議会
・「地区宣教司牧評議会規約作成」の大筋合意には至ったが、細かい点を審議中。
○　「結城了雪シンポジウム」（九月一五日）これは今年の「高松教区民の集い」に代わるもので、シンポジウムは徳島で開催する。従来の形式ではなく、徳島県民を巻き込む集いを目指す。パネラーに川村信三師（上智大）・結城了悟師（長崎）・坂東英雄氏（城東高教諭）を招き、溝部司教が司会を務める。宮崎から合唱団を招き、天正時代（一六世紀）の音楽合唱を披露する。

人々の幸せと社会の平和に向けて

～　第二回宗教者平和会議　～

諸宗教対話委員会委員長　西川康廣

二〇〇七年二月二七日(火)午後三時から七時まで、高松宗教者平和会議が四国カトリック会館において開催された。一二名（内カトリック四名）の参加があり、前半は懇談会、後半は夕食を交えた懇親会だった。

閉会に当たり参加者は、全体を振り返りつつ次のような感想を述べた。

諸宗教指導者が、一緒に座ることができたのは大きな進歩だ。内容も充実していたし深いものがあった。有意義な研修ができた、今後ずっと続けていきたい。今まで自分の宗教しか知らなかったが、宗教宗派が違っても共通するメッセージを発信できると確信した。今後この輪を広げて、互いの違いを乗り越えて深め合っていきたいと。

この企画の経緯は、第八回世界代表者宗教平和会議（ＷＣＲＰ）が昨年八月二六日から二九日まで京都で開催され、その後日本の四ヶ所（青森・東京・高松・長崎）で、ポストコングレス宗教者代表会議が開催された。高松においては、人々の幸せと社会の平和に向けて、宗教者が協力して貢献していくための出会いと語らいの機会とするため、同年八月三一日「かがわ国際会議場」において「すべてのいのちを守るために」と題して四国の諸宗教者が集い、「今、宗教者のできること」について一緒に考えた。

高松ポストコングレスを受けて、地元で諸宗教対話の機運が高まり、第一回の諸宗教会議を「法泉寺（番町）」で開催し、京都宣言の英語本文を日本語で読み、その中で語られている正義、平和、いのちが夫々の宗教でどのように理解され、表現されているかについて一緒に勉強することで合意した。この合意に基づき、今回「正義にもとづく平和」と題して、以下の事柄について意見交換をした。

①　正義をどのように理解し、表現するのか。英語でいう「give and take」かそれとも「give and give」か。仏教用語でどのように表現するのか。
②　平和をどのように理解し、表現するのか。アウグスチヌスは「秩序における静けさ」、バチカン公会議は「秩序を求めて与えられる静けさ」と表現する。
③　「いのち」をどのように理解し、表現するのか。与えられるもの、活かすもの、自然、動物とのかかわり。
④　人をどのように理解し、表現するのか。「脆い者であること」を自覚するところから平和が構築される（宣言）。

今後継続的に上記内容に関して深め合っていくことになる。

「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」

（ローマ人への手紙一二・一五）

人権を考える委員会研修会報告

Srメリー・ギリス

二〇〇七年三月九日(金)一〇時から一六時まで、さいたま教区教区長 谷大二司教のご指導のもとで、一日の研修をしました。中央協議会の組織の中に「社会司教委員会」は「難民移住移動者委員会」、「カリタスジャパン」、「正義と平和協議会」、「部落問題委員会」の四つがあります。谷司教はその内の二つ(難民移住移動者委員会と部落問題委員会)の委員長を担当しています。二十一年前の司祭叙階以来、ずっとこのような社会問題に深い関心を示し、さいたま教区の青年と共に貢献した経験豊かな方です。委員会活動を開始したばかりの私たちにとって意味深い研修会でした。

テーマは「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」（ローマの信徒への手紙一二・一五）でした。ここで内容を全部報告できませんが、まず、基本的な考え方として強調なさった点をまとめてみました。

①聖書の言葉である「聖なる人々」は「貧しい人々」を指しているということから、「共に生きる」姿勢は基本的に大切なこと。②「人権」という表現の英語訳を見ますと、〝Human Rights〟になり、〝right〟＝「正しい」ということを忘れてはいけないこと。人間として正しいことをする、またはできるということは「人権」であり、権力との結びつきのないように気をつけることが大切なこと。③大阪人権博物館(Museum of Liberty Osaka)には、人権の多くの問題についての展示がありますが、取り上げられていない問題も多い。たとえば、難民、移住移動者、人身取引、薬物依存、子供保護(特に無国籍の子供)などについて。人権が奪われている人がとても多いのです。どのように一緒に生きるのかが課題。④本来の人間のあり方が保障されるために、運動することが必要です。運動によって気づきが生まれます。しかし、社会問題に関する運動は少数派の活動が多い。なぜなら、まわりの人が当たり前と思っていることを言うわけではないから。理解者を増やしていくことが大切。⑤問題を抱えている人と関わる場合、一人で抱え込まないで、必ずチームで働くこと。その上、どこまで援助ができるかというルール作りも大切。⑥社会問題を熱心に取り組んでいる市民グループやＮＰＯはたくさんあります。そういうグループとの連携や繋がりも大切です。

高松教区の委員会の発足に当たり、溝部司教は、特に外国人司牧の必要性を強調しました。谷司教もそのことについて、かなりの時間をかけて話してくださいました。配布された資料の一つは、外国人信徒の統計でした。高松教区の邦人信徒数四九五一名に対して、外国人信徒は、約四五〇〇名がいます。そして、彼らはアジア、ヨーロッパ、アフリカ、北米、南米の五大陸二〇か国以上から訪れて四国に滞在しているのです。外国人信徒の司牧は、教会に呼び込むことだけではなく、ビザ、労働問題、健康保険、離婚、子供の教育、言語等々の問題に直面します。場合によっては、聴いてくださる人がいるだけでも良いのですが、問題によっては、弁護士、カウンセラーなどの専門知識が必要になってきます。統計を見て驚くと同時に、この課題の大きさの前で、方向付けが見えるように心から祈りたいと痛感しました。

研修会の締めくくりはミサでした。人々に先駆けて、社会問題とどう関わったらいいのか、模範を示してくださったのはイエスです。福音書の中でのイエスの行動と言葉は、その道しるべになるでしょう。イエスが、私たちに示した最大の愛のしるしである、イエスの死と復活を記念するミサの中で「共に生きる」ことができるように祈りました。

テゼの歌と祈りの集い

青少年委員会　ブラザー八木信彦

三月二二日～二四日、高松・桜町教会と、高知・江ノ口教会でテゼの歌と祈りの集いが行われました。フランスのテゼ（リヨンから北へ約一〇〇キロにある村）共同体から、ブラザーギランが来てくださり、高松・高知とも、各々約五〇名の参加者がありました。少数でしたが、プロテスタントの方々や若者の姿も見えました。日頃、時間や忙しさに追われている私たちにとって、くりかえし短い聖句を歌うことを通して、目に見えない聖霊の働きを強く感じ、そこから不思議な癒しや慰めを感じることができました。また、その歌の合間に語られるブラザーギランの、聖書を通してのメッセージも、とてもあたたかく、深く、心にしみとおってきました。おそらく霊的深みのある日本語を使って、通訳をしてくださったシスターギリスのおかげでしょう。世界中の若者が、このテゼに何千人も集う理由がわかるような気がしました。若者に限らず、人は心のどこかで、神との霊的な交わりやその静けさを渇望しているのでしょうね。

桜町教会での集い

受洗おめでとうございます

高松教区では、復活祭に二八人が洗礼を受けました。四人の方から喜びの声が届きました。

洗礼への導き

松山教会
マルガリタ　小笠原洋子

以前より信者であった姉達は、いつも愚痴をこぼしてばかりの私に会うと、「一度教会に来てみない」と、よく誘いました。でも、私は、生返事ばかりしていました。そんなある日、義兄の葬儀が教会で行われました。私にとって初めての体験でした。神父様のお話や賛美歌が印象的で、想像していた以上に、荘厳ながらも心温まる式でした。私は深く感動し、亡き義兄もきっと喜んでいるだろうと、涙が溢れて止まりませんでした。

これを契機に姉達と教会に通い始め、一年近く経った頃、洗礼に向けた勉強に入りました。お世話になった岡本神父様は、歴史に関してもご造詣が深く、そのお話は、とても興味深く楽しいものでした。感謝に堪えません。

まだまだこれからも、勉強会に引き続き通って、今までの自分をしっかりと見つめ直し、少しでも多くの人達に、愛を注いでいける人間になりたいと願っています。

洗礼志願者の想い

中島町教会
マリア・ヨセフィーナ　安部葉子

主イエスの福音により、盲人の目を開いてくださり、聞く耳を与えてくださった主に讃美と感謝をささげます。

洗礼志願者として選ばれ、死から命ある者としてくださった神に有り難く、このうえない喜びに満たされております。新たな人生を与えられたという素晴らしさは言い尽くせないほどです。もう神の道である、主は正義いつくしみ誠実な方という思いが今は強くなってきており、私は今たしかな道を歩いているのだという強い確信にも満ちています。誇りもあり、主とともに、という思いも日増しに強くなってきました。道をはずれることはないのだという安堵感もあります。

イエス・キリストは律法の完成者であり、どこにいても、どのような場所でもイエスの福音は永遠に不変であるということです。

これは苦しい時、主の言葉により、いく度か力づけられ祈りにも心が軽くさせられています。先ず自分の足でイエスの元に出向かねばならないということです。なにをなさったのか、どのような事を行われたのか知らねばならないと言われています。イエスにたずね御言葉に従い実行するということです。

主の御言葉は素晴らしく、一人ひとりの尊厳を思いやって下さる方です。ただ、御言葉に酔いしいれる者にならないようにとの戒めも説かれています。

行いの伴わない信仰のむなしさ、父のみ旨を行う者のみが天の国に入る者だと主は言われているからです。空しさの伴う人生は送りたくないと言うのが私の本音です。偽善これほど人生をしらけさすものはありません。そこに生まれるのは怨み辛みです。考えないようにしても空白の部分というものが出来ますからいいことはなく、心は苦しんでいくわけです。そのような私には祈りは特別なものです。最初は義務的でしたが少しずつ筋肉がほぐれるような感じで少しずつ頭を垂れて祈れるようになりました。その中でも、霊的花束でお二人のために祈りました。その力は素晴らしいものでした。

主は父のみ旨を行いその次には隣人のために行いなさいと言われます。主の御言葉は真実でありました。

主は、全てにおいて正しく偽りのない方でありますから、精神をこめて、思いをこめて、全てを捧げ尽くして、絶対的な方です。これほど心躍ることはありません。

神は、私の運命を回復させて下さった方です。もう主から離れることはありません。神である主を愛し、その道に従って歩み、戒めと法を守り、隣人を愛します。そうすれば、あなたは命を得ると聖書は言います。まさしくその通りです。離れていた私を、御心に引き寄せて下さった、主に、本当にありがたく、心強く心身共にこのうえない充実感が生まれてきています。

神父様、シスター、伝道師、信者、周りの人々に心より感謝をささげます。ありがとうございます。

洗礼式にて安部葉子さん

主であるキリストと共に

新居浜教会
アブラハム　眞鍋　諭

主の御復活、おめでとうございます。私は、この復活徹夜祭の夜、主の死と復活を記念する聖なる夜に、洗礼のお恵みを戴きました事、喜びに満ち心から感謝を致しております。我が神である主に、また、この夜まで私を支えお導き下さいました神父様やシスターの方々に。そして見ず知らずの私を兄弟姉妹として、心からお世話をして下さり、信仰の模範となって下さいました新居浜教会の信徒の皆様お一人おひとりに・・・。

思い起こせば二年前の四月、私をイエス様にお引き合わせ下さいました、シスターソールマリア・メデセデス木戸忍先生（本年三月御帰天）のお導きにより、求道者としての道を歩み出しました。同時に、青井さん、小西さん、秋山さんの三人の仲間にも恵まれ、兄弟姉妹として四人が互いに支え合い、求道期間を歩んで参りました。教会の皆様の日常を見せていただくなか、キリスト者は一般の普通の人達とは、何かが違うと感じる事が多々ありました。本物の神様を主とされる方々は、とても生き生きとしておられ、私たちにとって神様の証人となって下さいました。私自身は信仰の薄いものですが、アブラハムの深い信仰を模範として、またアブラハムが私の信仰を助けて下さると願いつつ、この恵まれた夜を人生の再出発点と致します。そして、イエス様が私の内に入って下さる事によって新たに生まれ変わり、イエス様の証人として生きる事が出来るように願っています。神様は、こんな私をもお見捨てになることなく、救いの対象として選んで下さり、私にも神様の愛を示して下さいました。感謝でいっぱいです。

全世界の人々の上に、主の豊かな愛のお恵みが届きますように・・・・

父と子と聖霊の御名によって

アーメン

洗礼を控えての私の今昔

鳴門教会
ヨシュア　水野佐知代

今から十年以上前の学生の頃、キリスト教作家の小説と、聖書の講義を受けた。それが、私が初めて無知さゆえに、高潔な教義と、人々の集まりと思い込んでいたキリスト教を、少し近くに感じた時だとおもう。

心に残っている事柄が幾つかある。「愛欲への渇望と、神への信仰は、無限と絶対とを求め、重なり合う。」と。

私の中で、現世の愛欲と、宗教の愛は交わり得る筈はなかったのに。

聖人の信仰告白の詩が、恋人への情熱的な手紙に思え、不実な恋人へ認められた、破戒修道士の手紙と、その頃に流行っていた、ロックバラードが、神への情熱的な信仰、激しい求めに感じられた。

でも本来、宗教心理というものは、崇高でなくてはならないのでは？　それを低く落としめているのではないのか？とも思った。

だが、福音を読む内に、神は、イエスは、人間的なものを、優しく、肯定してくれている様に感じられた。

心の貧しい人は、幸いである。

イエスの教えの様に、神の救いは、人間の最も俗的なもの、汚れたものの中でも行われるのだろうか？　全て拒まず、受け入れてくれるのだろうか？

不正と悪意と悲しみの中で、傷つき、傷つかせても、神は働きかけてくれるのだろうか。

全く、求めるばかりの私だ。イエスが悲しんだ人々の様に、現世で効果あるしるしばかりを求め続けていた。

強くありたいと思う。イエスの死後の弟子達の様に、または、砂漠を四十余年歩き続けた人々の様に。

エリコの王は、きっと、恐れただろう。過酷な砂漠の生活で、鍛えられた肉体的な強靭さではなく、神を信じ続けた、信仰の強さを。

弱く、卑怯な人間から、困難を進んで行く強い心を、イエスの弟子達の様に、目覚め、掴みたい。現実には無力であっても。

定まらず、曇りがちな、弱い心の私である。

イエスと共に歩みたい。イエスの傍らで休ませて欲しい。イエスの過越に、ついて行きたい。

本文掲載以外の受洗者の皆様

桜町教会
アンジェラ・メリチ　弓田　ひとみ
クリストファ　小野　隆広
フランシスカ　小野（かなと）　真理恵
ヨセフ　橋本　奏音
KENNETH　佐々木　涼太

丸亀教会
モニカ　尾郷　直生子
ルカ　尾郷　海暉
ペトロ　尾郷　陸渡
パウロ　尾郷　天達

新居浜教会
ユリアナ　青井　喜久子
マリア・テレサ　小西　まゆみ
マリア・ヘスス　秋山　雅代

今治教会
マリオ　渡辺　新

松山教会
エウフラシア　緒方　佳代子
マリア・ローザ　平岡　英子
マリア・カタリナ　門田　愛
マリア・ラファエラ　仙波　智美
セシリア　筒井　穂音
ベンセスラオ　栗山　けいすけ
エロナ・スティフェンディル・ジェイメリー　大野　礼子

郡中教会
エリザベト　今泉　智佳子
アンジェラ　今泉　花菜

中島町教会
ヴェロニカ　細川　心湖（ここ）

各地区だより

キリスト教講座に参加して
講座受講は「第二の堅信」

徳島教会　ペトロ　滝澤英一

徳島地区のキリスト教講座は、大変意義深いものでした。

幼児洗礼の私は、自分が何を信じているのか、キリスト教が、カトリックが何なのか見つめる事が少なかった。講座の受講は「第二の堅信」と呼んでも良いくらい、自分の信じているものが何なのかを教えてくれました。

講師陣も親切・丁寧で、しかもしっかりした知識をお持ちでした。さすが職業宗教家。当たり前の事ですが、神父はカトリックのプロなのだなあと感じ入りました。また、神学校の授業はこんなんだろうか、と思う事もあり貴重な経験でした。

高松・愛媛が終了して、これから高知でも開催されると思いますが、高知の皆さん、必聴ですよ！

講座参加の動機は、高田さんから強く勧められた事もありますが、私は昨年七月に徳島へ引っ越してきたばかりでしたから、多少でも徳島教会に溶け込む事ができれば、というものでした。仕事も大変に忙しいし、土曜日の午後一時半からの三時間は貴重です。しかしながら、迷ったら飛び込んだ方が、後悔が無い、と信じておりますので、カルチャースクールに行くノリで参加しました。学んだ事はいくつもあります。四旬節に栄光の賛歌を歌わないのは、年間のミサにメリハリをつけるため、だとか、「祈り込む」という事が何なのか。戦争等の被害者に対する神の御旨はどこにあったのか。「最近、赦しの秘蹟を受ける人が減っている」と聞いたときは、「私だけじゃなかったんだ」と安心しましたが、「イエスが分からないから、罪が見えず赦しを求めない」と教えられて、ギョッとしました。

岡本神父様講義

講座が始まってからも、講座への参加は、エネルギーが必要でした。講座がある都度、会費の一〇〇〇円と三時間で出来る事が頭を駆け巡りました。金曜の晩遅くまで飲んだ翌日は体がしんどくて、講座の最中に居眠りをした事もありました。

しかし結果的には、どの講座も内容が充実しており、参加して良かったとの思いでした。

休憩時間には、参加者全員が信徒会館でお茶やコーヒーをいただきました。時にはお手製のクッキーが出ました。阿南教会の方が下さった大根も美味しかったです。

こうした触れ合いも、講座参加の大きな楽しみの一つでした。

オブレート会の叙階式に参加して
教会と司祭のために真心から祈る

中島町教会　松本宏子

二〇〇七年二月一七日に、大阪・伊丹教会において池長大司教様の司式により、ドミニコ古川健一神父様（現在古賀教会）とアンセルモ助祭様（韓国）の叙階式が行われました。古川神父様の出身である伊丹教会はもちろん、韓国、名古屋、四国、九州からたくさんの司祭、修道者、信徒が集まり祝いました。式は日本語、英語、韓国語と国際的でした。二人のご家族の祈る姿や、アンセルモ助祭のお母様のチマチョゴリも印象的でした。池長大司教様の心のこもったお話は「神よ　わたしはすべてあなたのもの、あなたの完全なしもべ」（前教皇ヨハネ・パウロ２世のモットー）へとつながるように感じました。お二人のここまでの道は長く、また、さらにここからの道も険しいでしょう。でも、このお二人を呼ばれた主イエス・キリストがともにいてくださるのだから、どんなときにも、恐れないで歩んでほしいと祈りました。特に、現在の厳しい状況の中で、私たちも教会と司祭のために真心から祈る必要を感じました。たくさんの感謝の言葉で満ち溢れた叙階式の感動と喜びが、アメリカで病気療養中のシアニ神父様にもきっと届いたことでしょう。

「聖書一〇〇週間」を回顧して思うこと
旧約時代の人々と我々に大きな違いは無いのでは

徳島教会　稲垣一男

この集いが始まったのが丁度三年前、せいぜい二年少々ではと思って、出席表を見たらやはり三年間続いてきた。教会の行事等で時々休んだことがあったが、それ以外は、毎週木曜日一〇時から始まり、一一時三〇分までテキストに従って、予め決められた聖書の箇所を読み、特に心に残った所を皆で分かち合った。集会の初めには、司祭によって簡単な解説と質疑応答の時間もあり、会を重ねる毎に、聖書に対する見方が変わって来たように思われる。心に残った箇所については、不思議に皆が同じように受け取っていることが度々あって、これも摂理と言えるのではと思った。

旧約聖書の内容は、登場する預言者を通して働かれる、主なる神の存在があって、人類が導かれていくことが受けとめられて、旧約時代の人類と現代の我々と大きな違いは無いように思われてならない。

主なる神に呼ばれている事を確信し、すべての恵みを感謝の心で受けとめねばと思う。折角三年間を聖書の勉強に捧げたのでその証として、今年の教区の目標「宣教」に相応しい実践を心がけたいものと思っている。

2007年4月からの生涯養成講座年間プログラム

【主催】カトリック高松司教区生涯養成委員会

私たちが神を捜し求めているのではなく、神様が私たち一人ひとりを捜し求めています。神は豊かな水辺に案内してくださり、神との豊かな命の交わりに招いてくださいます。
講座を通して、ご一緒に歩んでみませんか。

講座名	講　師	場　所	日　時
若者と聖書	溝部　脩司教 佐藤直樹神父 Br八木信彦	丸亀カトリック教会 高松カトリック四国会館	後日お知らせする
福音を述べ伝えよう	浜口末男神父	カトリック四国会館	毎週木曜日 10:00～11:30 19:00～20:30
賛美の歌	河合まゆみ氏	カトリック四国会館	4月21日～ 毎週土曜日 10:00～11:30
結婚生活を生きるコース	ネルソン・ウイリアム神父 尾崎寿一氏・富江氏	カトリック四国会館	4月21日（土）～8月25日（土） 月一回の土曜日 14:00～16:30
生活から祈る	Sr.メリー・ギリス	カトリック四国会館	5月11日（金）～ 毎週の金曜日（計12回） 13:30～15:00

＊２００６年から継続している講座は次のとおり
① 聖書の宝探し（西川康廣助祭）
② 子育ての父母と共に（Sr．ギリス）
③ いちから始めるイタリア語（ルイジ神父）

訂正とお詫び
教区報一一六号五ページの「集いに参加した三人の高校生の体験文」の投稿者の名前が「松山市　渡邊　代」となっているのは「松山市　渡邊伊代」さんです。訂正をしてお詫び致します。

医療のともしび（3）
～臓器移植のこと～

イエズス様は、ご自分の全生命を私たち人類のために与えて下さいました。又、この度、列福運動中の１８８名の殉教者も、自分の命を神に、ひいては私たち後世の日本人信者のために捧げました。さて、現代に生きている私達信徒には、一体何ができるでしょうか。献血とか献体とか、移植のための臓器提供ならできるのかも知れません。カトリック教会はこれらの行為を、愛の行為として認めています。他者からの臓器提供によって健康を回復し、生き永らえる人々のために、救いの手をさしのべることなのですから。教会は約５０年前教皇ピオ１２世の頃から、臓器移植を肯定し、愛他的行為として、その技術の発展を次の条件のもとに認めています。１.提供者の自由意志による同意。２.死の確認。３.遺族への配慮。４.遺体への畏敬。５.遺体（臓器）の売買の否定。６.受容者の選択における公正。

ただここに、教会はひとつの警告も与えています。この地上の生活を生き延びることを、最優先する生命観と、消費社会での論理で、提供された臓器を商品化してしまう風潮に対してです（注）。ここからは、私見ですが最近のニュースにとり上げられた病気腎移植について考えて見ますと、当初は、殆どのマスコミも学会も、当事者の先生方を真っ向から批判していました。その医療行為が事前に病院の倫理委員会にかけるなどの手続きがとられなかったなどの理由で。しかしその後、数人の学者たちによりデータ収集・分析がなされ、これら３６件の移植術は、さまざまな角度からの検討と、人道的配慮のもとに行なわれたことが実証され、現在、その手術法に対して見直されつつあります。もし、これが公式に認められたら、日本で推定１万件の腎摘出術が行われ、そのうち２割が移植可能とするなら、毎年２千人の患者さんが、毎週３回、一生続けなければならない血液透析から解放され、毎日を健康人のように過ごすことができるようになるのです。腎不全の患者さんにとって、福音とも言える画期的な治療法となります。 研究が進み、公に認められることを個人的には願わずにはおられません。

（注）『いのちへのまなざし』２００１年日本カトリック司教団共著

坂出聖マルチン病院内科医　曽我部輝子

高松司教区本部会計報告書

教区会計 濱口秀昭

科目	2006年度決算	2007年度予算
経常収入の部		
納付金収入	14,985,835	15,000,000
分担金収入	4,609,761	4,500,000
特定献金収入	4,590,910	4,500,000
一粒会献金収入	1,556,470	1,600,000
特別献金収入	67,118,942	37,000,000
墓地・納骨堂等収入	3,177,000	3,000,000
事業収入	2,202,332	10,000,000
雑収入	1,278,700	1,000,000
経常収入計(A)	99,519,950	76,600,000
経常支出の部		
祭儀費	490,284	500,000
諸委員会活動費	2,784,579	5,500,000
宣教活動費	5,178,674	5,000,000
助成金支出	0	0
援助事業費	9,937,722	5,000,000
人件費小教区	0	0
人件費教区事務局	29,121,572	31,000,000
福利厚生費	286,230	300,000
維持管理費	9,586,637	10,000,000
事務管理費	12,685,068	12,500,000
養成費	950,218	4,500,000
運営管理費	0	0
雑損失	389,485	300,000
経常支出計(B)	71,410,469	74,600,000
財務収入の部		
固定資産収入	4,500,000	3,500,000
固定負債収入	0	0
その他の財務収入	19,385,509	20,000,000
内部取引勘定収入	30,569,955	5,000,000
資金調整勘定	0	0
財務収入計(C)	54,455,464	28,500,000
収入計(E=A+C)	153,975,414	105,100,000
前期繰越金(G)	241,107,875	256,965,969
収入合計(I=E+G)	395,083,289	362,065,969
財務支出の部		
固定資産支出	14,914,881	1,730,000
固定負債支出	0	0
その他の財務支出	21,222,015	20,000,000
内部取引勘定支出	30,569,955	5,000,000
資金調整勘定	0	0
財務支出計(D)	66,706,851	26,730,000
支出計(F=B+D)	138,117,320	101,330,000
次期繰越金(H)	256,965,969	260,735,969
支出合計(J=F+H)	395,083,289	362,065,969

※本会計は、基金、事務、一粒会、墓地・納骨堂、司祭会計の合算

ご理解とご協力に感謝！

２００６年度も皆様方のご理解とご協力により、宣教司牧の実りとともに、会計的にも無事に終了したことに心から感謝申しあげます。
例年、会計報告は数ページに渡って細かく報告致しておりましたが、今年度から左記のように大きな項目のみ報告させて頂きます。

尚、詳細を知りたい御方は、教区本部までご連絡下さい。
この数字は、教区事務会計に限らず、教区基金、一粒会、墓地・納骨堂、教区司祭のそれぞれの会計を含んでいます。
今年度は、会計区分の整理、通帳の整理を行い、僅かでもお金を生み出すために、ある纏まったお金を運用し始めたところです。
収入の部、納付金収入は教区維持献金であり、事業収入は主に定期預金取崩時の利息です。来年度は運用による利息を予想しています。
その他の財務収入は主に預り金および仮払金収入であり、基本的には同額が支出されます。固定資産支出はシスター招聘のために用意したマンション購入等の経費です。
今年度は会計区分を変更したり、会計システムの変更など沢山のことがありました。

本来、予算と決算の数値が隣隣り合わせに掲載されるべきでしょうが、今年度は諸事情により出来ていません。次年度からは対比できるようにしたいと考えています。
今年度は、宣教の年、さらに諸委員会活動をはじめとして教区が活気に満ちて宣教に励むことができるようにしたい。

今後ともよろしくお願い申しあげます。

2006年度カトリック高松司教区現勢調査報告

2006年12月31日現在

1．信徒数概況

	香川県	愛媛県	高知県	徳島県	合　計
面　　積	1,876.16 Km²	5,676.76 Km²	7,104.87 Km²	4,145.46 Km²	18,803.25 Km²
人　　口	1,009,298 人	1,459,079 人	796,166 人	804,849 人	4,069,392 人
前年度信徒数	1,529 人	1,863 人	852 人	707 人	4,951 人
信　　徒	1,542 人	1,897 人	790 人	708 人	4,937 人
司教・司祭	27 人	16 人	6 人	3 人	52 人
助　　祭	人	人	人	人	人
修道士	人	人	1 人	人	1 人
修道女	49 人	30 人	10 人	人	89 人
神学生	20 人	人	人	人	20 人
総　　数	1,638 人	1,943 人	807 人	711 人	5,099 人
前年度総数	1,620 人	1,912 人	867 人	713 人	5,112 人

2．人員構成

司教		2 人
教区司祭		26 人
宣教・修道司祭	ドミニコ会	10 人
	オブレート会	9 人
	スペイン外国宣教会	5 人
	宣教・修道司祭小計	24 人
助祭		人
神学生		20 人
修道士		1 人
修道女	聖ドミニコ宣教修道女会	56 人
	松山修道院	15 人
	北条修道院	11 人
	新居浜修道院	4 人
	坂出修道院	21 人
	小豆島修道院	5 人
	聖心の布教姉妹会	8 人
	聖母被昇天修道会	5 人
	神の母マリア修道院	13 人
	オタワ愛徳修道女会	2 人
	大阪聖ヨゼフ宣教修道女会	3 人
	ノートルダム修道会	2 人
	修道女小計	89 人

3．諸施設

（1）教会	
小教区	26 所
巡回教会	2 所
布教所	1 所
（2）修道院	
男子修道院	1 所
女子修道院	11 所
（3）教育施設	
教区立国際宣教神学院	20 人
聖カタリナ女子大学	743 人
聖カタリナ女子短期大学	327 人
愛光学園高等学校	689 人
聖カタリナ女子高等学校	1,378 人
愛光学園中学校	595 人
幼稚園（23園）	2,942 人
（4）社会福祉施設	
聖マルチン病院	196 床
聖マルチンの園	50 人
聖マルチンの家	55 人
マリアの園	50 人
聖園天使園	117 人
聖園ベビーホーム	61 人
保育所（2園）	23,600 人

4．教区内組織

- 教区顧問会
- 教区宣教司牧評議会
- 司祭評議会
- 経済問題評議会
- 修道女連盟
- カトリック幼稚園連盟
- 典礼委員会
- 生涯養成委員会
- 青少年委員会
- 広報委員会
- 地区　〃　（４県）
- 小教区　〃　(26)
- レジオ・マリエ
- ヴィンセンシオ会
- カトリック看護協会
- カトリック医師会
- カトリック・ボーイスカウト指導者協議会
- 教会学校教師会
- カトリック高校生会
- クリスチャン・ライフ・コミュニッティー
- マリッシ・エンカウンター
- 人権を考える委員会
- カトリック女性連合会
- 共助組合
- カナの会

5．信徒数動向

教会名	信徒数 男性	女性	総数	不明	洗礼 幼	成	転出入 入	出	死亡	堅信	初聖体	求道者	教会学校 信	未	ミサ参加 主日	復活	降誕	結婚 ①	②	③	④
桜町	308	512	820	61	2	5	7	4	7	3	7	8	25	21	250	320	500	0	0	0	17
番町	67	111	178	0	1	2	2	5	1	2	2	1	10	0	50	80	150	1	0	1	2
小豆島	27	33	60	27	1	17	0	0	17	0	0	0	0	0	15	20	40	0	0	1	0
三本松	24	29	53	2	1	0	0	0	1	0	0	6	4	0	25	30	40	0	0	0	0
坂出	62	133	195	0	0	7	4	4	3	6	6	4	0	0	115	200	225	0	0	1	0
丸亀	30	94	124	2	3	3	0	1	3	2	2	9	21	0	23	35	35	0	1	0	0
観音寺	7	27	34	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	18	20	55	0	0	0	0
善通寺	25	53	78	0	0	3	5	0	0	0	0	3	8	0	15	30	100	0	0	0	72
香川県計	550	992	1,542	92	8	37	19	14	32	13	17	32	68	21	511	735	1,145	1	1	3	91
松山	356	675	1,031	9	11	21	8	4	14	18	6	10	35	0	240	550	900	0	0	6	6
道後	52	112	164	7	2	1	6	1	3	0	0	1	0	0	50	90	50	0	0	0	3
今治	79	95	174	5	0	2	3	9	3	1	2	12	2	4	50	120	300	0	0	0	0
新居浜	99	144	243	3	1	1	13	1	2	0	5	4	18	3	70	100	120	0	0	0	3
西条	19	37	56	5	3	0	9	5	2	0	0	4	5	12	16	88	76	0	0	0	0
郡中	19	41	60	0	0	0	0	0	0	0	0	2	6	6	30	50	1,000	0	0	0	0
八幡浜	22	59	81	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2	0	20	40	60	0	0	0	0
宇和島	22	51	73	0	1	0	0	0	2	0	0	3	0	0	30	120	150	0	0	0	1
伊予三島	7	8	15	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	5	15	20	0	0	0	0
愛媛県計	675	1,222	1,897	29	18	27	40	20	26	20	14	36	68	25	511	1,173	2,676	0	0	6	13
中島町	152	281	433	9	3	7	4	1	6	10	8	23	6	0	160	340	300	1	5	0	22
江の口	75	116	191	0	1	2	1	1	2	3	2	34	10	24	65	90	140	0	0	0	0
安芸	10	29	39	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	9	15	13	0	0	0	0
赤岡	10	24	34	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	40	70	0	0	0	0
中村	10	83	93	19	0	1	1	0	2	0	0	0	0	0	10	90	70	0	0	0	0
高知県計	257	533	790	28	4	11	6	2	11	14	10	57	16	24	259	575	593	1	5	0	22
徳島	135	247	382	2	0	1	6	10	4	6	1	9	24	0	74	219	378	1	0	1	2
鳴門	84	108	192	0	1	2	0	1	1	1	2	5	0	0	40	70	170	0	0	0	0
阿南	37	54	91	0	0	1	0	0	2	0	0	3	0	0	15	30	30	0	1	0	0
池田	8	35	43	0	6	1	0	0	0	1	1	1	0	0	8	16	25	0	0	0	0
徳島県計	264	444	708	2	7	5	6	11	7	8	4	18	24	0	137	335	603	1	1	1	2
教区総計	1,746	3,191	4,937	151	37	80	71	47	76	55	45	143	176	70	1,418	2,818	5,017	3	7	10	128
前年度	1,763	3,188	4,951	391	40	59	56	79	54	57	49	98	187	76	1,348	2,740	3,828	2	4	18	137

【結婚】　①＝カトリック同士　②＝カトリックと他のキリスト教　③＝カトリックと他の宗教　④＝非カトリック同士

お知らせコーナー

生涯養成委員会から

溝部司教様の講演
ディオゴ結城了雪神父と その時代の司祭たち
DVDとビデオ貸し出し

講演に出席できなかった小教区の皆さんに貸し出します。講演の資料もあわせて差し上げます。

ビデオ作成：郡中教会　今泉芳純氏
申し込み先：四国カトリック会館
生涯養成委員会
Sr.メリー・ギリス
TEL 087-831-6659
FAX 087-833-1484

第８回　日本死の臨床研究会
中国・四国支部研究会ｉｎ香川

その人らしさを支える

時間　2007年６月９日（土）13:30～
場所　丸亀市民会館
内容　公開講座
鎌田　實 先生
（諏訪中央病院名誉院長）
『いのちに寄り添う緩和ケア』
参加費　1000円

参加申し込み・お問い合わせ先
大会事務局
〒769-1695
香川県観音寺市豊浜町姫浜708番地
三豊総合病院　緩和ケア病棟内
TEL 0875-52-3366　FAX 0875-52-4936
E-mail:kanwa@mitoyo-hosp.jp
〒762-0033
香川県坂出市谷町1－4－13
坂出聖マルチン病院　曽我部輝子
TEL 0877-46-5195　FAX 0877-46-0595

投稿記事募集

【テーマ】
いじめなど少年を取りまく事件・事故

【投稿要領】
字数は３００字以内（写真歓迎）
「所属教会名、住所、氏名」明記のこと。
中傷・誹謗はご遠慮下さい。
原稿はできるだけメールで送って下さい。
写真もデジカメで撮影したものはメールで送って下さい。

【投稿先】
メール：tk-koho@mxi.netwave.or.jp
郵　便：〒760-0074
高松市桜町１丁目８－９
カトリック高松司教区広報担当
ＴＥＬ：087-831-6659
ＦＡＸ：087-833-1484

特別展開催
「レオナルド・ダ・ヴィンチ ～天才の実像」

東京国立博物館（上野公園）において３月20日（火）から６月17日（日）までの間、「日本におけるイタリア２００７・春」と銘打って、レオナルド・ダ・ヴィンチの「受胎告知」を含む特別展が、ＮＨＫ、朝日新聞社などの主催で開催されております。

開館時間、休館日等詳細は東京国立博物館（TEL03-5777-8600）にお尋ねください。

主な司教日程

５月８日（火）～９日（水）
司祭評議会・司祭研修会
12日（土）　京都教区研修会
14日（月）　司祭ソフトボール大会（大分県）
18日（金）　宣教司牧評議会
19日（土）　岡山研修会
20日（日）　ルルド祭（三本松教会）
21日（月）～25日（金）
聖パウロ会黙想会指導
27日（日）　番町教会

６月３日（日）　正平協研修会（下関市）
５日（火）　司祭評議会
７日（木）　常任司教委員会（東京）
10日（日）　宣教司牧評議会総会
16日（土）～17日（日）
青年のつどい
18日（月）～22日（金）
司教総会（東京）
28日（木）～29日（金）
九州カトリック学校研修会（福岡）
30日（土）　部落問題研修会（長崎）